

Y.Sより多年度生の方々へ

私は8年半かかってようやく2次筆記に合格した「超多年度生」です。

「どうやったら長期化を防げたのか？」悪戦苦闘の受験歴を振り返りながら分析しましたので、ご参考にしていただければ幸いです。

【受験歴】

- H24 1次科目合格(大手予備校1. 5年通信)
- H25 1次不合格
- H26 1次合格、2次BBCC(独学)
- H27 1次免除、2次BCBB(独学)
- H28 子どもの中学受験のためスキップ
- H29 1次合格、2次BBAB(MMC通信+通学)
- H30 1次免除、2次DBAA(MMC通学)
- R1 1次合格、2次DCAA(独学+MMC模試)
- R2 1次免除、2次合格 (独学+MMC模試)

【迷走(H24~27)】

大手予備校では2次試験講座に違和感を覚えました。講師3人の講義を受けてみましたが、見事に**教え方がバラバラ**でした。そのうちの1人は、予備校の模範解答を痛烈に批判して一切使わず、自作の模範解答で講義していました。しかしその方法で答練を提出しても点数は伸びず納得感なし。ゴルフに例えれば、左肘を曲げなさいと言うコーチと、曲げるなというコーチの両方に教わって混乱するようなものでした。**勉強の型が定まらず、ブログを見ても余計に迷う**日々で、あえなく不合格でした。

【不惑と慢心(H29~R1)】

H29に会社同僚の診断士2人からMMCを勧められて受講したのですが、「これだ」と思いました。理由は、

①シンプルな解法技術、②一貫した講師指導、③スピーディーで丁寧な添削です。例えば、徳川先生の「覚えることを絞りこみましょう。A3用紙にぎっちりキーワードを書いたファイナルペーパーでは80分で書けません」や、中居先生の「事例IVは、まず3項目を完璧にしてから他をやりましょう」は、受からないのは知識不足と思っていた私にとってパラダイムシフトでした。また各講師のカラーは全く違うのですが、教える内容は一貫しているので、様々な角度からMMCの考え方に触れられました。そして答練から最速当日に添削指導を受けられるため、すぐ復習ができて有難かったです。まだまだ数多くのメリットがありますが、他の合格体験記に譲ります。

<ポイント①: 自分にあった勉強法に早く出会う>

H29は不合格でしたが、1次試験の忙しさで消化不良だったと考え、H30に再度MMCを受講しました。再答案では、一回解いたにも関わらず理想の解答を書けないもどかしさと格闘しました。このプロセスは重要だと思います。また一番前の席を確保し、講師の突然の質問を浴びることで、知識の瞬発的アウトプット力を養いました。

結果、MMC模試4回のうち2回で順位一桁を獲得。先生からも「合格の実力は十分」と言っていただけでしたが、今思うと天狗になっていたと思います。

H30本試験は、事例Iが解きにくいと感じたものの、D判定を取ってしまうとは思いませんでした。得点開示では、39・56・61・81で1点差の足切りだったので、「次こそ受かるだろう」と軽く考えていましたが、これが大きな間違いだったのです。

R1でもMMC模試で順位一桁を2回取って安心していましたが、またもや事例IでD判定を食らってしまいました。

<ポイント②：模試の点数に慢心しない>

【苦行と合格（R2）】

ここまで落ち続けると、「自分は診断士に向いてないのではないか」「もう引退しようか」と考え始め、モチベーションが最低レベルに落ちました。そんななか励みになったのは、徳川先生から「受け続けていれば必ず受かるよ」と言っていただけのことです。

気を取り直して取り組んだのは事例Iの過去問分析です。MMC答練の復習で十分と思っていたので、過去問分析は手薄でした。「やってなかったの？」と怒られそうですが。

私は、まず模範解答と自分の答案を並べてコピーし、模範解答の因果やキーワードで書けなかった問題を「なぜなぜ分析」して、理由と解決策を書き込みました。次に、数日後にその過去問を解きました。これは自分が思った以上に書けず自己嫌悪に陥る「苦行」でもありましたが、解いたことのある問題ができずに初見の本試験は解けないので、我慢しました。そして、数日後に自己ベスト答案を作りました。これをH13からR1まで、時間の許す限り取り組みました。

この方法でいかにどうか中居先生にお聞きしたところ、「その練習は大切。過去問とコミュニケーションして、どうやって失敗しないようにするか、精度を上げましょう」とアドバイスいただいたのが励みになりました。

事例Iは毎年ひねった問い方や、根拠が見つけない等、私は最後まで苦しみました。しかし過去問の数をこなした結果、新しい問題が出ていても問われていることの本質は同じなので、準備したことで解答する、という先生方の教えが身体にしみわたり、難問も無難に書けるようになりました。テニスに例えると、凄腕の出題者は、速い球、曲がる球、色んな球を打って受験生を惑わしてきますが、コートを外れる球は来ません。難しい球は何とか相手のコートに入れることだけ考え、たまに来るチャンスボールだけしっかり返せば良いのです。

<ポイント③：徹底的に過去問分析する>

【終わりに】

多年度になるとゴールが果てしなく遠いように見えて、辛い思いすることもあります
が、合格するとそれが良い経験と思い出に変わります。少なくとも、MMCで鍛えぬいた
技術や思考法は、仕事で必ず役に立ちます。最後まで読んで下さった多年度生の方々には、
ぜひあきらめず、MMCの方法を信じて突き進んでいただければ幸いです。

ところで、二次筆記終了後、ある会社の小規模事業者持続化補助金の申請をお手伝いす
ることになったのですが、「様式2 経営計画書」の記載例をみると、まるで事例文であ
り、MMCで培った経験を活かしたヒアリングで無事提出することができました。MMC
で学んだことは、二次試験対策に止まらず、診断士の仕事に活かせることを実感した出来
事でした。

最後になりますが、4年間暖かくご指導くださった徳川先生・中居先生をはじめ、
伊藤先生・勝山先生・中矢先生に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上